

第7章 教育の成果

7.1 教育成果の把握・評価

〔現況〕

- ・本校は、学生の満足度を計るべく「KTC総合アンケート調査」を平成15年から実施しています。アンケートはKTC教育評価委員会が中心になって前年度までのFD活動結果も踏まえ、調査項目を決定し、第三者機関に委託し集計分析を行っています。(資料7-1-1「KTC教育評価委員会規則」)達成度と満足度にはやや違いがあると考えますが、教育の質の向上を目指す第一歩として、在校生、卒業生、教職員、企業の方々の本校教育全般の満足度を調査し、改善に結びつけようとするものです。継続的なアンケート調査とその効果(改善要望に対する施策の実施)によって、アンケート調査の精度が向上していることは、第三者によって行われる学生の聞き取り調査からも確認されています。
- ・5年生に対するアンケート項目として「社会で求められる人材像」に関する項目を設けています。これは本校が目指す「技術者像」を構成する能力や資質を22項目に分けて質問したものです。学生自身は、やや低い水準での自己評価でありましたが、わずかずつではあります。反面、教員からの学生評価は、全体的に見て学生の自己評価よりも高い項目があり、達成度評価としては、やや整合性のない状況にあると考えています。(資料7-1-2「社会で求められる人材像」)
- ・在校生には「KTC授業アンケート調査項目」(物理・化学の例)(資料7-1-3)(資料7-1-4「授業アンケート調査結果」)も実施しています。本校の教育課程を構成する各学科目が適切に実施され機能することが、本校の教育目的の達成には不可欠です。またアンケート調査項目には平成20年度より教育技法に関する具体的な内容も付加し、アンケート結果に基づいて各教員の授業改善を進めています。
- ・1年生を対象にキャリアデザイン教育を平成17年度から実施しています。本校の学生の多くは、自らの目標を持つことが重要であることは理解できても、現実目標に向かって努力し、達成の喜びを得る経験は十分とは言えないと考えています。平成18年度から全学年で実施する、文科省GPに申請・採択(「共同と共創によるキャリアデザイン」)などの機会を得ており、今後キャリアデザイン教育の一層の充実を図り、達成感に基づく満足度の向上を目指す中で、達成度評価に結びつけていきたいと考えています。
- ・平成21年度からは、将来の技術のグローバル化を見通し「工学と英語の融合」と、新たな価値創造工学(例えばCDIO, Design thinking等)の導入を目的に、各専門学科で外国人と日本人教員を組み合わせ授業をする「工学英語共同学習」を始めました。しかしながら、学生の英語力の程度や運営自体に不慣れな点もあり、授業満足度は低い状態です。

〔評価〕

- ・アンケート内容の改善、企業人の授業への招聘、卒業生に関するアンケート調査、アンケート調査で得たデータの検証のための学生への聞き取り調査など行い、達成度評価の精度を上げる努力をしていますが、厳密な意味での達成度評価が行えていないと認識しており、今後継続した努力が必要であると考えています。
- ・「KTC総合アンケート調査結果」の中で5年生と教員に対するアンケート結果の「人材の能力に関するまとめ」(資料7-1-5)では、教員と学生の間に意識のずれが見られます。卒業を間近に控え、社会に巣立つことへの不安も大きいものがあると感じています。達成感に基づく自信を持たせる等、さらなる努力が必要であると考えています。
- ・達成度評価の前提には、教職員と学生の目標に関するベクトルの一致が重要です。本校の目標とする「心豊かな人材像」「創造性あふれるエンジニア像」に対する明確なイメージをキャリアデザイン教育の充実の中で形成してまいりたいと考えています。
- ・学校が追求する技術者像については、学校及び各学科で明らかにしていますが、学生の理解度は不十分であり

ます。色々な機会を捉え根気強く教育し理解を深めさせてまいりたいと考えています。

〔改善点〕

学生の卒業時に期待される人間像とその達成度の評価について、認識の徹底と具体的方法について検討する必要があると考えています。

(資料7 - 1 - - 1)

「K T C教育評価委員会規則」

K T C 教育評価委員会規程

(平成 11 年 4 月 1 日施行)
改正 平成 17 年 4 月 1 日

(委員会の目的)

第 1 条 この規程は、管理規則第 4 条第 1 項第 3 号ロに定める K T C 教育評価委員会(以下「委員会」という。)について、必要な事項を定める。

(委員会の設置)

第 2 条 委員会は、金沢工業高等専門学校(以下「本校」という。)が実施する教育活動全般に於いての自己及び外部点検評価の結果を確認することで、建学の精神に基づく教育活動の活性化となお一層の教育改革の推進に資することを目的とする。

(委員会の役割)

第 3 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1)教務主事及び研究主事
- (2)学科長
- (3)校長が指名する者
- (4)事務局長

2 研究主事は、委員長となり会務を主宰する。

(委員会の運営)

第 4 条 委員会は、委員長が招集し議長を務める。

2 議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

3 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

4 委員長は、委員会で審議した事項を十年委員会に報告するため、委員会報告を取り纏め校長に提出しなければならない。

5 委員長は、委員会報告を校長に提出するにあたり、本校の各種委員会との円滑な連携を図るため、事前に報告内容について学務会議の同意を得なければならない。

(委員会の事務)

第 5 条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

1 この規程は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から改正施行する。

3 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から改正施行する。

(出典：「金沢工業高等専門学校規則類集」P . 5 5)

(資料 7 - 1 - - 2)
「社会で求められる人材像」

[5 年 生]

「学生の自己評価」

「教職員による学生評価」



(出典：「平成 2 0 年度アンケート調査結果報告書」P.24,25)

(資料7 - 1 - - 3)
「KTC授業アンケート調査項目」(物理・化学の例)

この授業アンケートは授業改善を目的に実施するものです。素直かつ真面目に教えてください。

「物理・化学Ⅰ」に関する授業アンケート

2115-1

良い例	悪い例
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>

<input type="radio"/> (1)	<input checked="" type="radio"/> (2)	<input type="radio"/> (3)	<input type="radio"/> (4)	<input type="radio"/> (5)	<input type="radio"/> (6)	<input type="radio"/> (7)	<input type="radio"/> (8)	<input type="radio"/> (9)	<input type="radio"/> (0)
<input checked="" type="radio"/> (1)	<input type="radio"/> (2)	<input type="radio"/> (3)	<input type="radio"/> (4)	<input type="radio"/> (5)	<input type="radio"/> (6)	<input type="radio"/> (7)	<input type="radio"/> (8)	<input type="radio"/> (9)	<input type="radio"/> (0)
<input checked="" type="radio"/> (1)	<input type="radio"/> (2)	<input type="radio"/> (3)	<input type="radio"/> (4)	<input type="radio"/> (5)	<input type="radio"/> (6)	<input type="radio"/> (7)	<input type="radio"/> (8)	<input type="radio"/> (9)	<input type="radio"/> (0)
<input type="radio"/> (1)	<input checked="" type="radio"/> (2)	<input type="radio"/> (3)	<input type="radio"/> (4)	<input type="radio"/> (5)	<input type="radio"/> (6)	<input type="radio"/> (7)	<input type="radio"/> (8)	<input type="radio"/> (9)	<input type="radio"/> (0)
<input type="radio"/> (1)	<input type="radio"/> (2)	<input checked="" type="radio"/> (3)	<input type="radio"/> (4)	<input type="radio"/> (5)	<input type="radio"/> (6)	<input type="radio"/> (7)	<input type="radio"/> (8)	<input type="radio"/> (9)	<input type="radio"/> (0)
<input type="radio"/> (1)	<input type="radio"/> (2)	<input type="radio"/> (3)	<input checked="" type="radio"/> (4)	<input type="radio"/> (5)	<input type="radio"/> (6)	<input type="radio"/> (7)	<input type="radio"/> (8)	<input type="radio"/> (9)	<input type="radio"/> (0)

I. 各設問の回答番号にマークをしてください。

- A. あなたは、この授業に対して興味を持って受けられたと思いますか。
 (1) そう思う (2) まあそう思う (3) あまりそう思わない (4) そう思わない
- B. あなたは、この授業に対して宿題を含めて、どの程度予習・復習をしましたか？
 (1) 60分以上 (2) 30～60分程度 (3) 0～30分程度 (4) 試験前だけ行った (5) 特に行わなかった
- C. あなたは、この授業に対して積極的に取り組みましたか。
 (1) 積極的だった (2) まあ積極的だった (3) あまり積極的でなかった (4) 積極的でなかった
- D. あなたは、この授業に対して満足していますか。
 (1) 満足 (2) まあ満足 (3) 少し不満 (4) 不満
- E. この授業に関して次の1～8の項目でそう思うもの、そう思わないものを、それぞれ3つ以下で教えてください。
 1. 好きな科目である。
 2. 教科書や教材、配布資料などが、授業を理解する上で役に立った
 3. 課題やレポートなどが適切であった
 4. 授業の進め方(スピード)が適切であった
 5. 黒板やビデオ・OHPなどでの説明の仕方、書き方、表し方などがわかりやすかった
 6. 教員の授業中の話し方や説明の仕方がわかりやすかった
 7. 授業は、学生が理解しやすいように工夫されていた
 8. 教員が、授業中や授業後に、学生からの質問に丁寧に対応してくれた
 ※ 該当する項目にそれぞれマークしてください。3個までマークできます。該当しなければマークする必要はありません。
 そう思う (3つまで) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)
 そう思わない (3つまで) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)

II. あなたは下記の設問について、どの程度行動できましたか、また行動できますか。

- F. 「加速度」や「重力加速度」について理解できましたか？
 (1) 100% (2) 80% (3) 60% (4) 40% (5) 20% (6) 0%
- G. 力の合成や分解ができるようになりましたか？
 (1) 100% (2) 80% (3) 60% (4) 40% (5) 20% (6) 0%
- H. 運動の第2法則「力と加速度の関係」と運動方程式の立て方がわかりましたか？
 (1) 100% (2) 80% (3) 60% (4) 40% (5) 20% (6) 0%
- I. 摩擦が理解できましたか？
 (1) 100% (2) 80% (3) 60% (4) 40% (5) 20% (6) 0%
- J. 力のモーメントや重心に関する問題が解けるようになりましたか？
 (1) 100% (2) 80% (3) 60% (4) 40% (5) 20% (6) 0%
- K. 仕事や仕事の原理が理解できましたか？
 (1) 100% (2) 80% (3) 60% (4) 40% (5) 20% (6) 0%

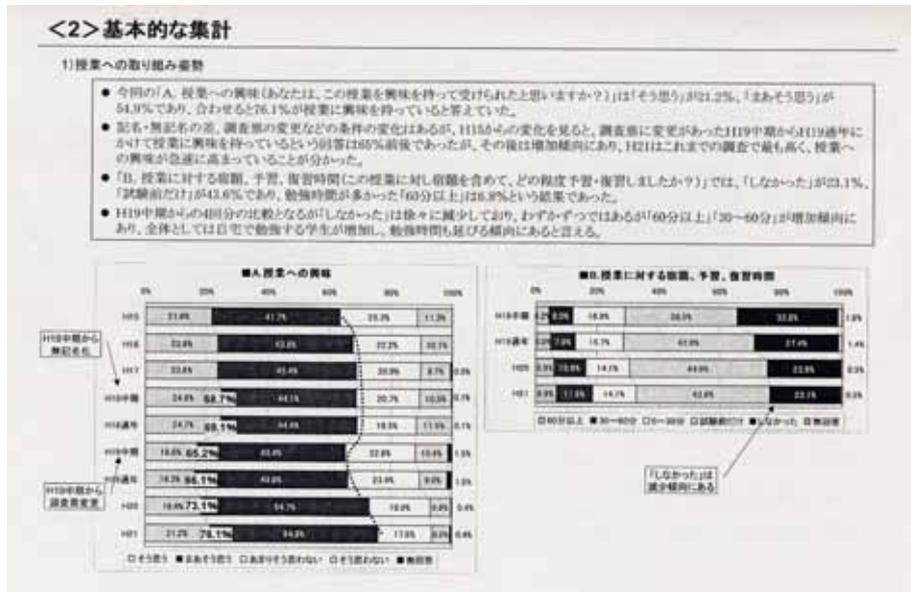
III. この授業についての意見を記入してください。記入する際は、何に関しての意見を次の1～4の項目から選び番号をマークした上で、具体的な内容を記入してください。

1. 授業内容 2. 進め方・話し方 3. 教材・配付資料・説明資料(ビデオ・OHPなど) 4. その他

番号	具体的な内容
<input type="radio"/> (1) <input type="radio"/> (2) <input type="radio"/> (3) <input type="radio"/> (4)	
<input type="radio"/> (1) <input type="radio"/> (2) <input type="radio"/> (3) <input type="radio"/> (4)	

(出典:「平成21年度KTC授業アンケート報告書」P41)

(資料7 - 1 - - 4)
「授業アンケート調査結果」



(出典：平成21年度アンケート調査報告書」P.34,35)

(資料7 - 1 - - 5)

「人材の能力に関するまとめ」

<4-2> 人材像に関するまとめ

<p>学生自身は「知的好奇心」や「パソコン・ネット活用能力」に自信があり、「リーダーシップ」「自律性」などを弱みと感じていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学生自身の自己評価では「新しい知識・技術への知的好奇心」「パソコンやインターネットの活用能力」「新たなものに挑戦する活力」「技術者としての責任自覚能力」「相手の立場になれる思いやりの心」などへの肯定的な意見が多く、自分たちの強みだと感じているようであった。 □ 一方、最も弱いのは「リーダーシップ能力」であり、「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「意見を分かりやすくまとめる能力」「自ら行動を起こせる自律性」「自己実現を目指す姿勢」などのスコアが低かった。 	<p>「5年生」は「4年生」よりも「情報収集力」「自律性」「勤勉さ」などに自信を持っていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「4年生」と「5年生」の評価にそれほど差はなかったが、「5年生」は「情報の収集能力」「自ら行動を起こせる自律性」「ねばり強く努力を続ける勤勉さ」「実践的・応用的な知識や技術」などが高く、自信を持っていると言える。 □ 「教職員」の評価は全般的に低かったが、「パソコンやインターネットの活用能力」「周囲に対する誠実さ」「周囲と共同し共創できるコミュニケーション能力」「相手の立場になれる思いやりの心」の評価が高く、教職員はこのあたりを卒業生の強みと感じているようであった。
<p>教職員も「パソコン・ネット活用能力」が卒業生の強みと見ており、周囲に配慮して協力しあえる能力を持っていると評価していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 教職員の卒業生評価では、「パソコンやインターネットの活用能力」が最も高く評価されており、次いで「周囲に対する誠実さ」「周囲と共同し共創できるコミュニケーション能力」「相手の立場になれる思いやりの心」「専門分野の基礎的な知識や技術」が強みだと見えていた。 □ 一方、最も弱いのは「仮説の構築能力」であり、「様々な視点から捉える能力」「自ら行動を起こせる自律性」「自己実現を目指す姿勢」「新たなものに挑戦する活力」のスコアも低かった。 	<p>「電気情報・電気電子」は行動力や知識・技術面をはじめとした自分の能力に自信を持っており、「機械」は自信を持っていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学科別では「電気情報・電気電子」のスコアが高めであり、自分自身の能力に自信を持っている。スコアの高かった項目を見ると、行動力や知識・技術面に自信を持っているようであった。 □ 「機械」は全体的に低めであり、「情報収集・整理分析能力」「英語」「パソコンやネットの活用能力」「新たなものに挑戦する活力」などを弱みと感じていた。 □ 「図情・グローバル」は「情報収集能力」「コミュニケーション能力」「知的好奇心」の高さが目立っていた。

(出典 「平成21年度 KTC総合アンケート調査結果」 P.59)

7.2 教育の成果

〔現況〕

- ・本校の教育実践目標や各学科の目標に基づく学力や資質、能力の評価は、各学科目における評価の積み重ねによって表わされます。このため、各学科目担当教員は、評価基準を各々工夫し単に定期試験による成績だけでなく、授業態度や提出レポート等も含む総合的な評価を行っています。また、各学科目担当教員は、自らの評価基準についてシラバスや授業の導入時等を通じ学生に周知徹底を図っています。従って、成績不良による留年者や退学者がいることは、止むを得ないと考えています。
- ・進級が危ぶまれる学生に対しては、担任、教務係および校長が中心となって修学指導を行っています。平成18年度からは、地域連携教育センターに教育指導教員を常駐させ質問や補習に対応できるようにしました。また、家庭教育の重要性を認識していただくために、学校 保護者 学生の共通認識による修学促進のため、「三位一体の教育」を目標に掲げてまいりました。さらに、学期毎に成績不良科目の補習指導や再試験などを行っていますが、それでも留年生が出ることは、成績評価を厳格に行うため止むを得ないと認識しています。
- ・資格取得や夢考房活動、海外留学、学生会活動、部活動等、学生の自己実現を目指す自発的な活動こそが、最も人間性を豊かにし、創造性につながると考えています。これらは、未だ十分とはいえませんが、学生の自主的な取り組みの中で成果が表れてきたと考えています。(資料7-2-1「主な資格取得状況」)(資料7-2-2「夢考房プロジェクト参加者数一覧表」)(資料7-2-3「海外留学状況」)(資料7-2-4「部活動入賞状況」(地区大会以上))
- ・卒業研究(創造実験)は、学生がこれまで身に付けてきた力を発揮する集大成の科目として、学科ごとに発表会を開催し、学生のプレゼンテーションによる活発な質疑が行われます。これにより、学生の教育成果の水準が保持できていると考えています。また、提出されたすべての卒業論文は製本され、ライブラリーセンターに保管されることによって後輩達の参考に供されています。
- ・毎年数人の学生が卒業研究の成果を電気あるいは機械の関連学会等で発表しています。
- ・卒業生の進路は、5年間の教育成果を最もよく表らわす指標のひとつと考えます。本校では、従来から 進学・就職とも100%を目標にしてまいりました。社会情勢の変化を受けやすい指標ですが、本校ではほぼこの目的を達成していると認識しています。就職や進学に関しては、学生の希望が十分に満たされるよう努力し、成果が得られているものと認識しています。
- ・教育の最終的な評価は就職先の企業による卒業生の評価であると考え、4年に一度企業アンケートを実施しその結果を改善の参考にしています。
- ・このことは平成20年度に実施した卒業生のアンケート結果(5年間隔で実施)にも現れていると認識しています。(資料7-2-5「平成20年度KTC総合アンケート調査結果」(卒業生))
- ・学生による学習達成度評価は、一般的な22項目についての総合アンケートで、各授業科目については授業アンケートによって行っています。その結果、十分とはいえませんが学校が意図する教育の成果や効果が上がっていると認識しています。
- ・各科目の成績は、学習支援計画書(シラバス)の評価基準(定期試験、課題、学習態度等)によって決められており、学生は学期ごとの成績によって自己の学習に対する取り組みの評価を確認することができます。
- ・学生の達成度評価の前提には、目標の理解と共有が必要です。教員は、授業アンケート結果や教育成果発表会での情報交換、自己点検自己評価書による校長との面談などを踏まえて、「教育改善への取組と今年度の目標」を作成しています。これにより各教員が担当する学科目の到達目標や行動目標が定められています。
- ・教員は、授業アンケート結果報告会や教育成果発表会による教員間の情報交換を通して、教育の目標に関する理解と合意形成を進めています。

- ・授業アンケートは、AからKの質問項目を設定し、うちAからEは、全学科目一律の質問内容としています。Eには教員の教育法や学生の授業に対する見方について8つの細目があります。FからKは、各科目独自の設定を教科目担当者が設定できることとしています。(資料7-1- - 3「KTC授業アンケート調査項目」(物理・化学の例)既出)
- ・シラバスの到達目標に対する成績及び授業満足度を総合的に判断して、達成度を評価することとしています。
- ・授業アンケートのCとDの中に達成度に繋がる「取り組み姿勢」と「満足度」を把握する項目を設けていますが、十分機能するに至っていないと認識しています。
- ・本校の教育方針に基づき、正課及び正課外の活動において、優秀な成果を修めた学生等に対して推薦し表彰・褒賞を行っています。(資料7-2- - 6「金沢工業高等専門学校校長表彰・褒賞規程」)(資料7-2- - 7「校長表彰・褒賞者の一覧」)
- ・成績優秀者に対する特待生制度を設け、奨学金を給付しています。平成22年度からは、学生生活全般を通じてリーダーシップを発揮した学生に奨学金を給付することにしました。
- ・本校では、これまで進路指導委員会の担当教員が中心となり各企業を訪問し、企業人事担当者、卒業生、教育支援及び部外講演依頼者からからの聞き取りによって情報を収集しています。また、平成15年度に進路先及び過去5か年間の卒業生に対してアンケートを実施しています。これらの結果は、全教員が参加するFD研修会において発表される等、情報の共有に努めています。

(資料 7 - 2 - - 1)

「主な資格取得状況」

資格名	種別	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
		合格者	合格者	合格者	合格者	合格者
危険物取扱者	乙種1類	1	0	4	2	3
	乙2	1	0	2	2	5
	乙3	1	0	3	1	3
	乙4	5	13	5	9	21
	乙5	1	2	4	0	2
	乙6	1	1	4	2	1
	丙種	11	9	2	0	1
消防設備士	甲種	0	0	0	0	0
	乙4	0	0	0	0	0
	乙7	0	0	0	0	0
電気主任技術者	第3種	1	0	0	0	0
電気工事士	第2種	15	16	10	3	5
ラジオ・音響技能検定	3級	0	0	1	0	0
	4級	0	0	0	0	0
陸上無線技術士	2級	1	0	0	0	0
	基本情報(2種)	2	6	2	0	4
情報処理技術者	初級シニアD	2	1	3	1	0
	ITパスポート	0	0	0	0	1
	ソフトウェア開発	0	1	0	0	0
	2級(情報)	0	2	0	0	0
デジタル技術検定	3級	0	0	0	1	0
	4級	2	0	0	0	0
	CG2級	0				
画像情報技能検定	CG3級	4				
	画像処理2級	0				
	画像処理3級	0				
	マルチメディア2級	0				
	マルチメディア3級	2				
機械設計技術者	3級	13	2	5	2	4
	準1級	2	0	0	0	0
実用英語技能検定	2級	8	4	6	3	4
	準2級	18	7	6	4	6
	3級	9	7	0	3	2
	2級	0	2	0	0	0
工業英語検定	3級	4	2	0	0	1
	4級	4	2	1	1	0
	2級	0	3	1	1	0
漢字能力検定	準2級	7	6	3	8	5
	3級	4	4	4	3	0
	4級	0	0	0	0	0
	2級	0	0	0	0	0
日本語文章能力検定	準2級	0	1	1	1	0
	3級	3	9	1	3	0
	4級	5	1	1	2	1
	2級	2	1	3	0	0
実用数学技能検定	準2級	9	8	5	2	2
	3級	11	11	4	4	0
CAD利用技術者	2級	0	0	0		
	準1級	0	0	0	1	0
秘書技能検定	2級	1	0	0	1	2
	3級	5	6	3	0	12
	2級	1	0	0	0	0
カラーコーディネータ検定	3級	2	1	0	5	4
	1級	1	3	1	1	2
情報技術検定	2級	32	23	27	37	21
	3級	25	44	50	67	27
	ガス溶接技能者	5	21	10	0	26
電気取扱業務安全衛生特別教育	46	31	48	32	50	
インターネット検定	シングルスター	1	0	0	0	0
CGクリエイター検定	デジタル映像3級	0	0	0	1	2
	WEBデザイン3級	0	0	1	0	0
	3級	0	4	0	0	0
CGエンジニア検定	CG3級	0	0	1	3	1
	画像処理3級	0	0	0	1	0
	3級	0	1	0	0	0
映像音響処理技術者		0	0	0	1	0
日本語検定	3級			0	0	20
	4級			0	1	0
マイクロソフト認定試験	MOSスペシャリスト(エクセル)			0	10	12
	MOSエキスパート(エクセル)			0	8	0
	MCAS(エクセル)			0	2	62
	MCAS(ワード)			0	1	6
	MCAS(パワーポイント)			0	0	1
	MCAS(アウテス)			0	0	1

(資料7-2-2)

「夢考房プロジェクト参加者数一覧表」

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	総計
ロボット	8						8
ソーラーカー	4	8	4	6	1		23
ソーラーボート	1						1
風力発電	1						1
福祉機器開発		2	1				3
自律走行車		4					4
メカニカルサポート			1	2	1	1	5
組込みソフトウェア					5	5	10
	14	14	6	8	7	6	55

夢房プロジェクト活動成果

年度	ソーラーカー(夢考房プロジェクト)	RoboCup(夢考房プロジェクト)	ソーラーボート(夢考房プロジェクト)	風力発電(夢考房プロジェクト)	メカニカルサポート(夢考房プロジェクト)
平成17年度	ソーラーカーレース鈴鹿2005 総合20位	「中型リーグ春季キャンプ競技会」を本学にて開催 リーグ3位 RoboCup 2005 OSAKA 中型ロボットリーグ ベスト8	-	1号機[陸上用]の試験 風力発電システム2号機[洋上用]の設計・製作 財団法人滋谷学術文化スポーツ振興財団「大学の新技术、研究活動への奨励金」採択	第5回レスキューロボットコンテスト 書類審査にて不採択 第12回かわさきロボット競技大会 予選敗退
平成18年度	ソーラーカーレース鈴鹿2006 総合14位(クラス8位)	RoboCup Japan Open 2006 北九州 中型ロボットリーグ3位、4足歩行ロボットリーグ決勝リーグ1回戦敗退 RoboCup 2005 Bremen / Germany 中型ロボットリーグ 予選敗退	ソーラー&人力ボート全日本選手権大会 耐久レース3位、スプリントレース12位、スラロームレース棄権	風力発電システム2号機[洋上用]完成 洋上での実験開始・検証	第6回レスキューロボットコンテスト 予選敗退 第13回かわさきロボット競技大会 予選敗退
平成19年度	ソーラーカーレース鈴鹿2007 総合11位(クラス6位) ミツバ賞3位	RoboCup Japan Open 2007 大阪 中型ロボットリーグ3位、4足歩行ロボットリーグ決勝リーグ1回戦敗退 韓国ソウルにて開催されたRobot World 2007 (国際ロボットコンテスト)のデモンストレーション	ソーラー&人力ボート全日本選手権大会 耐久レース8位、スプリントレース13位、スラロームレース5位	2号機の不具合の改善、洋上での実験 新ブレードの設計・製作	第7回レスキューロボットコンテスト 本選 技術賞を受賞 トライアルデモンストレーションへの参加 実用機開発班発足
平成20年度	-	RoboCup Japan Open 2008 in Numadu 中型ロボットリーグ、ヒューマノイドリーグティンサイズ、ヒューマノイドリーグキッズサイズ参加	ハイブリッドボートの設計	新ナセルの設計・製作 新ブレードによる発電試験	第8回レスキューロボットコンテスト 本選 ベストチームワーク賞を受賞
平成21年度	ソーラーカーレース鈴鹿2008 総合13位(クラス8位)	RoboCup Japan Open 2008 in Osaka 中型ロボットリーグ、ヒューマノイドリーグティンサイズ、ヒューマノイドリーグキッズサイズ 出場 RoboCup 2009 GRAZ	ソーラー&人力ボート全日本選手権大会 耐久レース8位、スプリントレース9位、スラロームレース7位 学生ソーラー部門優勝	新ナセルの製作	第9回レスキューロボットコンテスト 本選 総合3位、ベストロボット賞受賞、 消防庁長官賞受賞

(資料7-2-3)

「海外留学状況」

「海外留学状況」 ()女子の数

	NZ オタゴポリテクニク			
	D 3	M 3	C 3	合計
平成17年度	6 (0)	1 (0)	15 (6)	22 (6)
平成18年度	1 (0)	0 (0)	15 (6)	16 (6)
平成19年度	3 (0)	6 (0)	10 (3)	19 (3)
平成20年度	2 (0)	6 (0)	12 (2)	20 (2)
平成21年度	1 (0)	3 (0)	7 (1)	11 (1)
平成22年度	5 (0)	1 (0)	9 (4)	15 (4)

NZ ニュージーランドオタゴポリテクニク: 1年間

	海外英語研修 S M C			
	D 2	M 2	C 2	合計
平成17年度	13 (1)	7 (1)	16 (2)	36 (4)
平成18年度	8 (0)	13 (0)	14 (5)	35 (5)
平成19年度	12 (0)	7 (1)	19 (3)	38 (4)
平成20年度	16 (0)	10 (0)	26 (4)	52 (4)
平成21年度	10 (0)	9 (0)	17 (3)	36 (3)
平成22年度	6 (0)	14 (0)	10 (6)	30 (6)

海外英語研修 (米国セントマイケルズ大学): 夏期休暇中の5週間

(資料7 - 2 - - 4)

「部活動入賞状況」(地区大会以上)

平成17年度	第40回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・バスケットボール(男子):優勝 ・剣道(男子):優勝 ・剣道(女子):2位 ・ソフトテニス(男子):3位 [個人の部] ・剣道(男子):優勝、2位、3位 ・剣道(女子):3位 ・水泳(男子):200mバタフライ(優勝)、100mバタフライ(2位)、100m自由形(3位)、50m自由形(3位) ・陸上走高跳(3位) 第40回全国高専体育大会 [個人の部] ・剣道(男子):3位 第18回全国高等学校将棋竜王戦石川大会B級:3位
平成18年度	第41回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・バスケットボール(男子):優勝 ・剣道(男子):優勝 ・ソフトテニス(男子):3位 [個人の部] ・剣道(男子):優勝、2位、3位 ・水泳(男子):400m自由形(2位)、200mバタフライ(3位)
平成19年度	第42回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・バスケットボール(男子):優勝 ・剣道(男子):優勝 ・ソフトテニス(男子):3位 [個人の部] ・剣道(男子):優勝、2位、 ・柔道60kg級(男子):優勝 ・水泳(男子):50m自由形(優勝)、100m自由形(2位)、200m自由形(2位)、800m自由形(3位) 第42回全国高専体育大会 [団体の部] ・バスケットボール(男子):準優勝 第43回全国高等学校将棋選手権石川大会B級:優勝
平成20年度	第43回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・バスケットボール(男子):優勝 ・剣道(男子):優勝 [個人の部] ・水泳(男子):50m自由形(優勝)、100m自由形(優勝) 第43回全国高専体育大会 [団体の部] ・バスケットボール(男子):3位
平成21年度	第44回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・バスケットボール(男子):優勝 ・ソフトテニス(男子):2位 ・卓球(男子):3位 [個人の部] ・剣道(男子):優勝、2位、 ・水泳(男子):100m平泳ぎ(2位)、200m平泳ぎ(2位) 第45回全国高等学校将棋選手権石川大会B級:優勝 第22回全国高等学校将棋竜王戦石川大会B級:3位
平成22年度	第45回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・ハンドボール(男子):優勝 ・バスケットボール(男子):2位 ・ソフトテニス(男子):2位 [個人の部] ・水泳(男子):100m平泳ぎ(2位)、200m平泳ぎ(優勝) 第45回全国高専体育大会 [団体の部] ・ハンドボール(男子):優勝

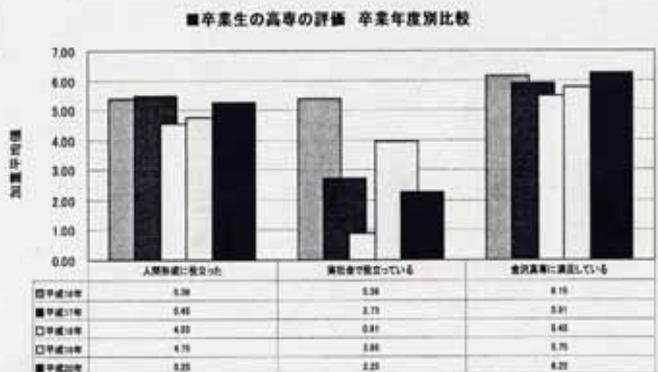
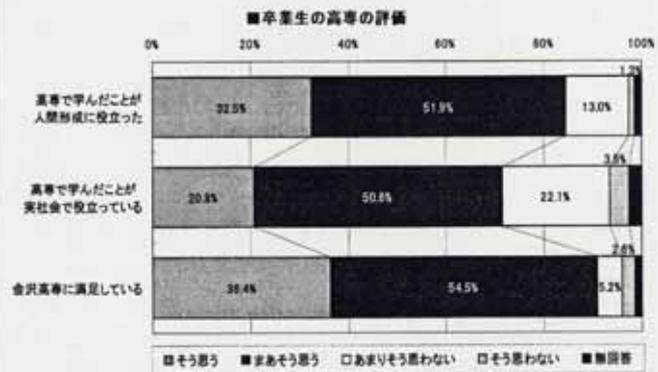
(資料 7 - 2 - - 5)

「平成 20 年度 K T C 総合アンケート調査結果」(卒業生)

<5-2> 卒業生の金沢高専に対する評価

■卒業生の金沢高専に対する評価 卒業年度別比較

- 卒業生には金沢高専で学んだことがどのように役立ったかを聞いたが、「金沢高専に満足している」という質問では「そう思う」が36.4%、「まあそう思う」が54.5%であり、合わせると90.9%が満足していると答えていた。
- 「高専で学んだことが人間形成に役立った」では84.4%が肯定的な意見であり、「高専で学んだことが実社会で役立っている」では71.4%が肯定的な意見であった。
- 高専の評価に関する質問はH16の調査から継続的に聞いているが、その変化を見ると、「金沢高専に満足している」はH18からわずかずつつではあるが継続的に肯定的な意見が増加している。そして、「人間形成に役立った」も同様にH18から継続的に増加してきている。
- 「実社会で役立っている」はH18からH19にかけては肯定的な意見が増加していたが、今回は減少していた。



(出典:「平成 20 年度 K T C 総合アンケート調査結果」(報告書) P . 6 8)

(資料7 - 2 - - 6)

「金沢工業高等専門学校校長表彰・褒賞規程」

金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 校 長 表 彰 ・ 褒 賞 規 程

第1条 本校の教育方針に基づき、正課及び正課外の活動において、優秀な成果を修めた本校学生に対し校長表彰又は校長褒賞を行う。

第2条 前条の表彰又は褒賞を受ける学生（以下「表彰・褒賞学生」という。）は、別表に掲げる項目の一つに該当する者から選ばれるものとする。

第3条 表彰・褒賞学生は、本校教職員の推薦により、校長が決定する。推薦者は、所定の推薦書を提出するものとする。

第4条 表彰・褒賞学生には、校長が表彰状又は褒状を授与する。

第5条 表彰・褒賞を行う方式、時期等については、校長がその都度定める。

附 則

この規程は、昭和61年4月1日より施行する。

（出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」PP.103～104）

別表 校長表彰・褒賞学生

表彰名称	対象学年	基準
優等賞	1～4年 (1ヶ年間)	クラス担任が本年度学業成績優秀であった学生の中から2名を推薦し、学務会議において審議、承認する。
	5年 (1ヶ年間 & 5ヶ年間)	クラス担任が在学中の学業成績が優秀であった学生、及び本年度学業成績優秀であった学生の中から2名推薦し、学務会議において審議、承認する。
資格試験合格	全学年	校長表彰・褒賞：資格試験合格者表彰・褒賞基準参照
競技会入賞	全学年	競技会、コンテスト入賞者、その他の課外活動 表彰・褒賞の基準参照
コンテスト入賞	全学年	
1ヵ年皆勤賞	全学年	遅刻、早退、欠課時間数が0の者。
部活動1ヵ年皆勤賞	全学年	本年度の部活動において1ヶ年間無欠席の者。(但し、年間活動日数が140日以上の方に限る)
部活動1ヵ年精勤賞	全学年	本年度の部活動において1ヶ年間の欠席日数が2日以内の者。または年間活動日数が120～140日の部において皆出席の者。
精励賞	1～4年 (1ヶ年間)	部活動、課外活動、学校生活等において、地道に努力を続け他の模範となる学生
	5年 (1ヶ年間 & 5ヶ年間)	
功労賞	5年	功労賞基準参照
部活動5ヵ年皆勤賞	5年	5ヶ年間の部活動において欠席が3日以内の者。(但し、年間活動日数が140日以上の方に限る。)
部活動5ヵ年精勤賞	5年	5ヶ年間の部活動において欠席が4日～10日以内の者。(但し、年間活動日数が140日以上の方に限る。)
5ヵ年皆勤賞	5年	在学中の欠席日数が0日で、欠課合計時間数が6.5時間以内の者。(遅刻・早退は0.5時間とする)
5ヵ年精勤賞	5年	在学中の欠席日数が4日以内で、欠課合計時間数が27.5時間以内の者。(遅刻・早退は0.5時間とする)

褒賞名称	対象学年	基準
優秀科目賞	全学年	各科目において優れた成績を収めた者。但し、優等賞に選ばれた者は除外される。
資格試験合格	全学年	校長表彰・褒賞：資格試験合格者表彰・褒賞基準参照
競技会入賞	全学年	競技会、コンテスト入賞者、その他の課外活動 表彰・褒賞の基準参照
コンテスト入賞	全学年	
精励賞	1～4年 (1ヶ年間)	部活動、課外活動、学校生活等において、地道に努力を続け他の模範となる学生
功労賞	5年 (1ヶ年間 & 5ヶ年間)	功労賞基準参照

(資料7 - 2 - - 7)

「校長表彰・褒賞者の一覧」

平成17年度 (単位:人数)

	前期	後期	計
表彰	27	279	306
褒賞	93	410	503

平成18年度

	前期	後期	計
表彰	13	266	279
褒賞	97	363	460

平成19年度

	前期	後期	計
表彰	25	244	269
褒賞	36	401	437
精励賞	31		31

平成20年度

	前期	後期	計
表彰	21	246	267
褒賞	50	471	521

平成21年度

	前期	後期	計
表彰	3	257	260
褒賞	77	474	551

平成22年度

	前期	後期	計
表彰	22	240	262
褒賞	62	392	454

【評価】

- ・厳しい成績評価の中で、毎年複数の留年生や退学者が出ることは残念なことです。一方で卒業生の就職や進学の様子は、評価基準の適切性を証明するものと考えています。(資料7-2-8「在学生の状況(準学士課程)」(資料7-2-9「休学者の状況(準学士課程)」(資料7-2-10「退学者の状況(準学士課程)」(資料7-2-11「留年生の状況(準学士課程)」)
- ・資格取得や夢考房活動、海外での短期・長期留学等、学生の自発的学習意欲と活動による様々な取り組みも徐々に活性化しており、今後、より一層の進展を目指します。
- ・就職率は毎年100%を達成し、進学希望者も金沢工業大学を始めとする進学希望先へ進学が果たされてきた状況にあり、教育の成果は上がっていると考えています。(7-2-12「卒業後の進路の状況(準学士課程)」(7-2-13「就職状況(職業別)」(7-2-14「就職状況(産業別)」(7-2-15「平成21年度進路先一覧)」(7-2-16「進学状況(進学者数)」(7-2-17「進学状況(進学先)」)
- ・本校卒業生の就職先企業が、多年にわたり継続して卒業生を採用してくれている実績は、本校の教育の成果の一面であると考えています。
- ・総合アンケート結果から、教育に対する学生の満足度は現時点で妥当であると判断しています。授業全般については、穴水自然学苑教育を除き60%台以上の満足度であります。穴水学苑教育については、内容の厳しさが影響していると判断していますが、本校の人間形成教育の支柱であり工夫しつつもこれを維持していきます。(資料7-2-18「平成20年度金沢高専の総合的な満足度」と「授業満足度」)
- ・一部の学科目において、学生の満足度が低い結果であったことは、本校の意図する「わかりやすい授業の実践」や「学習意欲の触発への取組」が不十分であったと考えています。このうち、教育技法に起因するものについては、校長が担当教員と面談し改善方法について指導しています。
- ・授業アンケートのFからKの項目は、教員個人の最も注目する事項ですが、平成17年度から「学習支援計画書(シラバス)」に記載される到達目標や行動目標に沿った項目の設定に改め「何ができるようになったか」を問える達成度評価とすることを奨励しています。その結果、大部分の教員が達成度を把握する方向に進んでいます。(資料7-2-19「KTC授業アンケート調査結果」)
- ・学生は学期ごとの成績や表彰・褒賞等を通じて、自己の学習に対する達成度を把握できていると考えています。
- ・今後キャリアデザイン教育の充実を図り、学生がK I T - I D E A L Sに基づく自己実現の目標を持つことを進める中で、より正確な満足度評価と併せ達成度評価を把握することを目指しています。
- ・人事担当者や卒業生からの聞き取りでは、一部の卒業生に企業内の人間関係に不満を持ち、早期に退職するなどの問題が見受けられますが、おおむね良好な勤務実績を示しています。また、本校では、「人間性を豊かにする教育」「ものづくり教育」を多くの企業ができていると評価する等を得て、本校の教育成果が上がっていると考えています。(資料7-2-20)「企業等からの意見聴取」
- ・英語と国際交流をポイントとした教育については6割程度の評価を戴いていますが、技術のグローバル化と本校の特色化のための施策と考えており、今後とも工夫していきたいと考えています。
- ・KTC授業アンケートやKTC総合アンケートによって学生や企業、卒業生、教育支援及び部外講演依頼者から直接的な評価が得られる仕組みが確立されています。
- ・クラス担任、部活顧問、科目担当等複数の教員が立場を異にして学生の声を聞く体制が確立されています。
- ・進路指導委員会の担当教員が毎年企業を訪問し、企業担当者との間に聞き取りによる情報の収集ができる人間関係が確立されています。
- ・校長と教員が「教育目標及び実施に関する報告書」を基に面談し、さらに教育成果発表会、年3回に及ぶF

D 研修会によって学生指導や教育方法等の改善について協議するなど、情報を共有する仕組みを確立しています。

〔改善点〕

- ・一般科目に比して専門科目で満足度が低下する傾向を示しています。
- ・K T C 授業アンケートやK T C 総合アンケートによる分析結果等を基に、教育成果の向上に役立つ仕組みをさらに構築する必要があると考えています。
- ・学生による学習達成度評価は進んでいますが完全ではなく、全ての科目について統一した形で実施するべく努力を行ってまいります。
- ・本校教育の特徴の1つである「英語教育」や、平成21年度から全学科に適用した「工学英語の融合教育」は、十分な授業満足度があるとは認識していませんが、わが国の技術の将来を見通した施策であり蓄積も浅いことから、今後とも工夫し発展させる予定です。

以上のとおり、本校で教授した教育の成果や効果を総合的に判断すれば、今後さらなる継続した努力が必要であると考えています。

(資料 7 - 2 - - 8)

「在学生の状況(準学士課程)」

平成17年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気情報工学科	47	1	48	45	1	46	47	1	48	-	-	-	-	-	-	139	3	142
機械工学科	48	0	48	52	1	53	52	1	53	41	2	43	35	0	35	228	4	232
国際コミュニケーション 情報工学	25	8	33	27	7	34	24	7	31	-	-	-	-	-	-	76	22	98
電気工学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70	6	76	66	7	73	136	13	149
合計	120	9	129	124	9	133	123	9	132	111	8	119	101	7	108	579	42	621

平成18年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気情報工学科	41	0	41	41	1	42	41	1	42	47	1	48	-	-	-	170	3	173
機械工学科	46	1	47	46	0	46	47	1	48	52	1	53	41	2	43	232	5	237
国際コミュニケーション 情報工学	29	7	36	21	7	28	28	7	35	21	7	28	-	-	-	99	28	127
電気工学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1	68	6	74	69	6	75
合計	116	8	124	108	8	116	116	9	125	121	9	130	109	8	117	570	42	612

平成19年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気情報工学科	35	0	35	38	0	38	32	0	32	39	1	40	47	1	48	191	2	193
機械工学科	36	0	36	45	1	46	45	0	45	47	1	48	51	1	52	224	3	227
国際コミュニケーション 情報工学	24	8	34	28	7	35	21	7	28	27	7	34	21	7	28	121	36	157
電気工学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1	1	0	1
合計	95	8	105	111	8	119	98	7	105	113	9	122	120	9	129	537	41	578

平成20年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気情報工学科	32	3	35	36	0	36	32	0	32	33	0	33	37	1	38	170	4	174
機械工学科	43	0	43	36	0	36	43	1	44	46	0	46	45	1	46	213	2	215
国際コミュニケーション 情報工学	29	6	35	25	7	32	27	7	34	21	7	28	27	7	34	129	34	163
合計	104	9	113	97	7	104	102	8	110	100	7	107	109	9	118	512	40	552

平成21年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気電子工学科	27	0	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	0	27
機械工学科	32	1	33	40	0	40	36	0	36	42	1	43	43	0	43	193	2	195
電気情報工学科	2	0	2	29	3	32	35	0	35	31	0	31	32	0	32	129	3	132
グローバル情報工学科	13	7	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	7	20
国際コミュニケーション 情報工学	0	1	1	28	5	33	25	6	31	26	7	33	20	7	27	99	26	125
合計	74	9	83	97	8	105	96	6	102	99	8	107	95	7	102	461	38	499

平成22年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気電子工学科	40	0	40	27	0	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	67	0	67
機械工学科	40	0	40	32	1	33	38	0	38	38	0	38	41	1	42	189	2	191
電気情報工学科	0	0	0	0	1	1	27	2	29	33	0	33	30	0	30	90	3	93
グローバル情報工学科	28	10	38	12	7	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	17	57
国際コミュニケーション 情報工学	0	0	0	2	0	2	25	5	30	26	6	32	26	7	33	79	18	97
合計	108	10	118	46	9	55	90	7	97	97	6	103	97	8	105	465	40	505

(資料 7 - 2 - - 9)
「休学者の状況 (準学士課程)」

平成17年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	休学者	率 (%)															
電気情報工学科	48	1	2.1	47	0	0.0	49	0	0.0	-	-	-	-	-	144	1	0.7	
機械工学科	49	0	0.0	54	0	0.0	55	0	0.0	44	0	0.0	36	0	0.0	238	0	0.0
国際コミュニケーション 情報工学	34	1	2.9	35	1	2.9	32	0	0.0	-	-	-	-	-	101	2	2.0	
電気工学科	-	-	-	2	1	50.0	1	1	100.0	79	1	1.3	73	0	0.0	153	2	1.3
合計	131	2	1.5	138	1	0.7	137	1	0.7	123	1	0.8	109	0	0.0	636	5	0.8

平成18年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	休学者	率 (%)															
電気情報工学科	45	1	2.2	46	2	4.3	46	0	0.0	48	0	0.0	-	-	185	3	1.6	
機械工学科	47	0	0.0	50	0	0.0	51	0	0.0	53	0	0.0	43	0	0.0	244	0	0.0
国際コミュニケーション 情報工学	38	2	5.3	32	0	0.0	36	0	0.0	29	1	3.4	-	-	135	3	2.2	
電気工学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0.0	75	0	0.0	76	0	0.0
合計	130	3	2.3	128	2	1.6	133	0	0.0	131	1	0.8	118	0	0.0	640	6	0.9

平成19年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	休学者	率 (%)															
電気情報工学科	35	0	0.0	44	0	0.0	37	0	0.0	42	1	2.4	48	0	0.0	206	1	0.5
機械工学科	36	0	0.0	47	0	0.0	47	0	0.0	48	0	0.0	52	0	0.0	230	0	0.0
国際コミュニケーション 情報工学	35	0	0.0	37	0	0.0	28	0	0.0	35	0	0.0	28	0	0.0	163	0	0.0
電気工学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0.0	1	0	0.0
合計	106	0	0.0	128	0	0.0	112	0	0.0	125	1	0.8	129	0	0.0	600	1	0.2

平成20年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	休学者	率 (%)															
電気情報工学科	38	0	0.0	39	1	2.6	33	0	0.0	33	1	3.0	39	0	0.0	182	2	1.1
機械工学科	44	0	0.0	36	0	0.0	46	0	0.0	46	0	0.0	47	0	0.0	219	0	0.0
国際コミュニケーション 情報工学	36	0	0.0	34	0	0.0	35	0	0.0	28	0	0.0	34	0	0.0	167	0	0.0
合計	118	0	0.0	109	1	0.9	114	0	0.0	107	1	0.9	120	0	0.0	568	2	0.4

平成21年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	休学者	率 (%)															
電気電子工学科	27	1	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	1	3.7	
機械工学科	34	1	2.9	43	0	0.0	36	0	0.0	47	0	0.0	42	0	0.0	202	1	0.5
電気情報工学科	2	0	0.0	33	0	0.0	36	0	0.0	33	0	0.0	32	0	0.0	136	0	0.0
グローバル情報工学科	21	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	0	0.0	
国際コミュニケーション 情報工学	1	1	100.0	34	0	0.0	32	0	0.0	34	0	0.0	28	0	0.0	129	1	0.8
合計	85	3	3.5	110	0	0.0	104	0	0.0	114	0	0.0	102	0	0.0	515	3	0.6

平成22年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	休学者	率 (%)															
電気電子工学科	40	0	0.0	27	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	67	0	0.0	
機械工学科	42	0	0.0	33	0	0.0	40	0	0.0	38	1	2.6	42	0	0.0	195	1	0.5
電気情報工学科	-	-	-	1	0	0.0	31	0	0.0	35	0	0.0	31	0	0.0	98	0	0.0
グローバル情報工学科	38	0	0.0	20	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	58	0	0.0	
国際コミュニケーション 情報工学	1	1	100.0	2	0	0.0	31	0	0.0	32	0	0.0	32	0	0.0	97	0	0.0
合計	121	1	1	83	0	0.0	102	0	0.0	105	1	1.0	105	0	0.0	515	1	0.2

(資料 7 - 2 - - 10)

「退学者の状況 (準学士課程)」

平成17年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率 (%)															
電気情報工学科	48	0	0	47	1	2.1	49	1	2.0	-	-	-	-	-	144	2	1.4	
機械工学科	49	1	2.0	54	1	1.9	55	2	3.6	44	1	2.3	36	1	2.8	238	6	2.5
国際コミュニケーション 情報工学	34	1	2.9	35	1	2.9	32	1	3.1	-	-	-	-	-	101	3	3.0	
電気工学科	-	-	-	2	2	100.0	1	1	100.0	79	3	3.8	73	0	0.0	152	3	2.0
合計	131	2	1.5	138	5	3.6	137	5	3.6	123	4	3.3	109	1	0.9	635	14	2.2

平成18年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率 (%)															
電気情報工学科	45	4	8.9	46	3	6.5	46	4	8.7	48	0	0.0	-	-	185	11	5.9	
機械工学科	47	0	0.0	50	4	8.0	51	3	5.9	53	0	0.0	43	0	0.0	244	7	2.9
国際コミュニケーション 情報工学	38	2	5.3	32	4	12.5	36	1	2.8	29	1	3.4	-	-	135	8	5.9	
電気工学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0.0	75	1	1.3	76	1	1.3
合計	130	6	4.6	128	11	8.6	133	8	6.0	131	1	0.8	118	1	1.33	640	27	4.2

平成19年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率 (%)															
電気情報工学科	35	0	0.0	44	6	13.6	37	5	13.5	42	2	4.8	48	0	0.0	206	13	6.3
機械工学科	36	0	0.0	47	1	2.1	47	2	4.3	48	0	0.0	52	0	0.0	230	3	1.3
国際コミュニケーション 情報工学	35	1	2.9	37	2	5.4	28	0	0.0	35	1	2.9	28	0	0.0	163	4	2.5
電気工学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0.0	1	0	0.0
合計	106	1	0.9	128	9	7.0	112	7	6.3	125	3	2.4	129	0	0.0	600	20	3.3

平成20年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率 (%)															
電気情報工学科	38	3	7.9	39	3	7.7	33	1	3.0	33	0	0.0	39	1	2.6	182	8	4.4
機械工学科	44	1	2.3	36	0	0.0	46	2	4.3	46	0	0.0	47	1	2.1	219	4	1.8
国際コミュニケーション 情報工学	36	1	2.8	34	2	5.9	35	1	2.9	28	0	0.0	34	0	0.0	167	4	2.4
合計	118	5	4.2	109	5	4.6	114	4	3.5	107	0	0.0	120	2	1.7	568	16	2.8

平成21年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率 (%)															
電気電子工学科	27	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	0	0.0
機械工学科	34	1	2.9	43	3	7.0	36	0	0.0	47	4	8.5	42	0	0.0	202	8	4.0
電気情報工学科	2	0	0.0	33	1	3.0	36	1	2.8	33	2	6.1	32	0	0.0	136	4	2.9
グローバル情報工学科	21	1	4.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	1	4.8
国際コミュニケーション 情報工学	1	0	0.0	34	1	2.9	32	1	3.1	34	1	2.9	28	1	3.6	129	4	3.1
合計	85	2	2.4	110	5	4.5	104	2	1.9	114	7	6.1	102	1	1.0	515	17	3.3

平成22年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率 (%)															
電気電子工学科	40	0	0.0	27	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	67	0	0.0
機械工学科	42	2	4.8	33	0	0.0	40	2	5.0	38	0	0.0	42	1	2.4	195	5	2.6
電気情報工学科	-	-	-	1	0	0.0	31	2	6.5	35	2	5.7	31	1	3.2	98	5	5.1
グローバル情報工学科	38	0	0.0	20	1	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	58	1	1.7
国際コミュニケーション 情報工学	1	1	100.0	2	0	0.0	31	1	3.2	32	0	0.0	32	0	0.0	98	2	2.0
合計	121	3	2.5	83	1	1.2	102	5	4.9	105	2	1.9	105	2	1.9	516	13	2.5

(資料 7 - 2 - - 1 1)

「留年者の状況(準学士課程)」

平成17年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率(%)	在学者	留年者	率(%)												
電気情報工学科	48	3	6.3	47	0	0.0	49	0	0.0	-	-	-	-	-	144	3	2.08	
機械工学科	49	0	0.0	54	2	3.7	55	0	0.0	44	0	0.0	36	0	238	2	0.84	
国際コミュニケーション 情報工学	34	1	2.9	35	0	0.0	32	2	6.3	-	-	-	-	-	101	3	2.97	
電気工学科	-	-	-	2	0	0.0	1	0	0.0	79	1	1.3	73	0	152	1	0.66	
合計	131	4	3.1	138	2	1.4	137	2	1.5	123	1	0.8	109	0	635	9	1.4	

平成18年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率(%)															
電気情報工学科	45	1	2.2	46	4	8.7	46	0	0.0	48	0	0.0	-	-	185	5	2.7	
機械工学科	47	0	0.0	50	0	0.0	51	0	0.0	53	1	1.9	43	0	244	1	0.4	
国際コミュニケーション 情報工学	38	0	0.0	32	1	3.1	36	0	0.0	29	0	0.0	-	-	135	1	0.7	
電気工学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0.0	75	0	76	0	0.0	
合計	130	1	0.8	128	5	3.9	133	0	0.0	131	1	0.8	118	0	640	7	1.1	

平成19年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率(%)															
電気情報工学科	35	1	2.9	44	6	13.6	37	0	0.0	42	1	2.4	48	0	206	8	3.9	
機械工学科	36	0	0.0	47	0	0.0	47	0	0.0	48	1	2.1	52	0	230	1	0.4	
国際コミュニケーション 情報工学	35	0	0.0	37	0	0.0	28	0	0.0	35	0	0.0	28	0	163	0	0.0	
電気工学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	1	0	0.0	
合計	106	1	0.9	128	6	4.7	112	0	0.0	125	2	1.6	129	0	600	9	1.5	

平成20年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率(%)															
電気情報工学科	38	2	5.3	39	0	0.0	33	0	0.0	33	1	3.0	39	0	182	3	1.6	
機械工学科	44	0	0.0	36	0	0.0	46	0	0.0	46	3	6.5	47	0	219	3	1.4	
国際コミュニケーション 情報工学	36	1	2.8	34	0	0.0	35	0	0.0	28	0	0.0	34	0	167	1	0.6	
合計	118	3	2.5	109	0	0.0	114	0	0.0	107	4	3.7	120	0	568	7	1.2	

平成21年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率(%)	在学者	留年者	率(%)	在学者	留年者	率(%)	在学者	留年者	率(%)	在学者	留年者	率(%)	在学者	留年者	率(%)
電気電子工学科	27	2	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	2	7.4	
機械工学科	34	0	0.0	43	0	0.0	36	0	0.0	47	2	4.3	42	1	202	3	1.5	
電気情報工学科	2	0	0.0	33	1	3.0	36	0	0.0	33	0	0.0	32	0	136	1	0.7	
グローバル情報工学科	21	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	0	0.0	
国際コミュニケーション 情報工学	1	1	100.0	34	2	5.9	32	0	0.0	34	0	0.0	28	0	129	3	2.3	
合計	85	3	3.5	110	3	2.7	104	0	0.0	114	2	1.8	102	1	515	9	1.7	

平成22年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率(%)															
電気電子工学科	40	0	0.0	27	2	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-	67	2	3.0	
機械工学科	42	1	2.4	33	0	0.0	40	2	5.0	38	1	2.6	42	0	195	4	2.1	
電気情報工学科	-	-	-	1	0	0.0	31	3	9.7	35	2	5.7	31	0	98	5	5.1	
グローバル情報工学科	38	2	5.3	20	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	58	2	3.4	
国際コミュニケーション 情報工学	1	0	0.0	2	0	0.0	31	0	0.0	32	0	0.0	32	1	98	1	1.0	
合計	121	3	2.5	83	2	2.4	102	5	4.9	105	3	2.9	105	1	516	14	2.7	

(資料7 - 2 - - 12)
「卒業後の進路の状況 (準学士課程)」

平成17年度卒業生

学科	卒業者数			就職						就職者内訳	就職率	進学						就職進学者数	左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
	男	女	計	希望者数			就職者数					希望者数			進学者数				進学率	男			女			計		
				男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女			計	
電気	66	7	73	41	6	47	41	6	47	別	100	23	1	24	23	1	24	100	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0
機械	35	0	35	19	0	19	19	0	19	紙	100	17	0	17	17	0	17	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	101	7	108	60	6	66	60	6	66		100	40	1	41	40	1	41	100	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0

平成18年度卒業生

学科	卒業者数			就職						就職者内訳	就職率	進学						就職進学者数	左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
	男	女	計	希望者数			就職者数					希望者数			進学者数				進学率	男			女			計		
				男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女			計	
電気	68	6	74	43	5	48	43	5	48	別	100	25	1	26	25	1	26	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
機械	41	2	43	32	0	32	32	0	32	紙	100	9	2	11	8	2	10	91%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2%
計	109	8	117	75	5	80	75	5	80		100	34	3	37	33	3	36	97%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1%

平成19年度卒業生

学科	卒業者数			就職						就職者内訳	就職率	進学						就職進学者数	左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
	男	女	計	希望者数			就職者数					希望者数			進学者数				進学率	男			女			計		
				男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女			計	
電気情報	48	1	49	30	1	31	30	1	31	別	100	18	0	18	18	0	18	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
機械	51	1	52	40	1	41	40	1	41	紙	100	11	0	11	11	0	11	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際コミュニケーション情報	21	7	28	9	6	15	9	6	15		100	12	1	13	12	1	13	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	120	9	129	79	8	87	79	8	87		100	41	1	42	41	1	42	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成20年度卒業生

学科	卒業者数			就職						就職者内訳	就職率	進学						就職進学者数	左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
	男	女	計	希望者数			就職者数					希望者数			進学者数				進学率	男			女			計		
				男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女			計	
電気情報	37	1	38	36	1	37	36	1	37	別	100	1	0	1	1	0	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
機械	45	1	46	30	1	31	30	1	31	紙	100	15	0	15	15	0	15	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際コミュニケーション情報	27	7	34	17	7	24	17	7	24		100	9	0	9	9	0	9	100	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
計	109	9	118	83	9	92	83	9	92		100	25	0	25	25	0	25	100	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0

平成21年度卒業生

学科	卒業者数			就職						就職者内訳	就職率	進学						就職進学者数	左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
	男	女	計	希望者数			就職者数					希望者数			進学者数				進学率	男			女			計		
				男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女			計	
電気情報	32	0	32	22	0	22	22	0	22	別	100	10	0	10	9	0	9	100	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
機械	42	0	42	24	0	24	24	0	24	紙	100	18	0	18	18	0	18	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際コミュニケーション情報	20	7	27	6	7	13	6	7	13		100	13	0	13	13	0	13	100	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
計	94	7	101	52	7	59	52	7	59		100	41	0	41	40	0	40	100	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0

平成22年度卒業生

学科	卒業者数			就職						就職者内訳	就職率	進学						就職進学者数	左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
	男	女	計	希望者数			就職者数					希望者数			進学者数				進学率	男			女			計		
				男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女			計	
電気情報	30	0	30	25	0	25	25	0	25	別	100	5	0	5	5	0	5	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
機械	40	1	41	23	0	23	23	0	23	紙	100	17	1	18	17	1	18	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際コミュニケーション情報	25	7	32	10	3	13	10	3	13		100	16	3	19	16	3	19	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	95	8	103	58	3	61	58	3	61		100	38	4	42	38	4	42	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成23年度卒業生

学科	卒業者数			就職						就職者内訳	就職率	進学						就職進学者数	左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
	男	女	計	希望者数			就職者数					希望者数			進学者数				進学率	男			女			計		
				男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女			計	
電気情報			0			0			0	別	100			0			0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
機械			0			0			0	紙	100			0			0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際コミュニケーション情報			0			0			0		100			0			0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計			0			0			0		100			0			0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(資料7-2-13)

「就職状況(職業別)」

		職業別就職者数									合計
		専門的・技術的 職業従事者	管理的 職業	事務 従事者	販売 従事者	サー ビス 職業	保安 職業	運 輸 ・ 通 信	生 産 工 程 ・ 労 務 作 業 者	左 記 以 外	
平成17年度	電気工学科	32			2	10		2		1	47
	機械工学科	14			1	3					18
	計	46	0	0	3	13	0	2	0	1	65
平成18年度	電気工学科	28			5	9		5		1	48
	機械工学科	25			2	3		1		1	32
	計	53	0	0	7	12	0	6	0	2	80
平成19年度	電気情報工学科	26			1	3		2			32
	機械工学科	37				2				2	41
	国際コミュニケーション情報工学科	8			2	3		2			15
	計	71	0	0	3	8	0	4	0	2	88
平成20年度	電気情報工学科	30				5		2			37
	機械工学科	27			1	3					31
	国際コミュニケーション情報工学科	11			4	4		5			24
	計	68	0	0	5	12	0	7	0	0	92
平成21年度	電気情報工学科	18				3		1			22
	機械工学科	21			2	1					24
	国際コミュニケーション情報工学科	3			3	3		2		2	13
	計	42	0	0	5	7	0	3	0	2	59
平成22年度	電気情報工学科	20			1	3		1			25
	機械工学科	20			2	1					23
	国際コミュニケーション情報工学科	4			2	4		2		1	13
	計	44	0	0	5	8	0	3	0	1	61
平成23年度	電気情報工学科										0
	機械工学科										0
	国際コミュニケーション情報工学科										0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(資料 7 - 2 - - 1 4)

「就職状況 (産業別)」

		産 業 別 就 職 者 数														
		農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建 設 業	製 造 業	熱 供 給 ・ 水 道 業 電 気 ・ ガ ス	運 輸 ・ 通 信 業	卸 売 ・ 小 売 業 飲 食 店	金 融 ・ 保 険 業	不 動 産 業	サ ー ビ ス 業	公 務	左 記 以 外	合 計
平成17年度	電気工学科					5	27	1	2	2			10			47
	機械工学科					1	13			1			3			18
	計	0	0	0	0	6	40	1	2	3	0	0	13	0	0	65
平成18年度	電気工学科					4	22	2	5	5			9	1		48
	機械工学科					2	23		1	2			3	1		32
	計	0	0	0	0	6	45	2	6	7	0	0	12	2	0	80
平成19年度	電気情報工学科					3	21	2	2	1			3			32
	機械工学科						37						2	2		41
	国際コミュニケーション情報工学科					1	5		2	2			5			15
	計	0	0	0	0	4	63	2	4	3	0	0	10	2	0	88
平成20年度	電気情報工学科						29	1	2				5			37
	機械工学科						27			1			3			31
	国際コミュニケーション情報工学科					1	7		5	4			7			24
	計	0	0	0	0	1	63	1	7	5	0	0	15	0	0	92
平成21年度	電気情報工学科					4	12	2	1				3			22
	機械工学科					2	19			2			1			24
	国際コミュニケーション情報工学科						1		2	3			5	2		13
	計	0	0	0	0	6	32	2	3	5	0	0	9	2	0	59
平成22年度	電気情報工学科					3	14	3	1	1			3			25
	機械工学科					1	19			2			1			23
	国際コミュニケーション情報工学科						3		2	2			5	1		13
	計	0	0	0	0	4	36	3	3	5	0	0	9	1	0	61
平成23年度	電気情報工学科															0
	機械工学科															0
	国際コミュニケーション情報工学科															0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(資料 7 - 2 - - 15)
「平成 21 年度進路先一覧」

項 目 学 科	在 籍 者		進 学 者		就 職 者			自 営 ・ そ の 他	求 人 会 社 数	求 人 数	求 人 倍 率
	卒 業 者 数	留 学 者 等	希 望 者 数	合 格 者 数	希 望 者 数	内 定 者 数	内 定 率 (%)				
電 気 情 報 工 学 科	32	0	10	9	22	22	100.0	0	496	470	21.4
機 械 工 学 科	42	0	18	18	24	24	100.0	0		459	19.1
国際コミュニケーション 情 報 工 学 科	27	0	13	13	13	13	100.0	1		402	30.9
総 計	101	0	41	40	59	59	100.0	1		929	15.7

業 種	会 社 名
建 設 業	日本電話施設、※日立ビルシステム、富士電機システムズ、前田道路、ヨネモリ
食 料 品 ・ 飲 料 ・ 飼 料 ・ た ば こ 製 造 業	竹内製薬
化 学 工 業 ・ 石 油 ・ 石 炭	出光興産 愛知製油所、D I C
鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属 ・ 金 属 製 品 製 造 業	玉田工業、※東洋製罐
一 般 機 械 器 具 製 造 業	石川製作所、稲本製作所、オリエンタルチェン工業、グローリー、サン・プラント工業、※澁谷工業、大京、大同工業、※東芝エレベータ、徳野製作所、日本オーチス・エレベータ、三浦工業
そ の 他 製 造 業	アロカ、イコマメカニカル、日本自動ドア、※メタウォーター
電 気 ・ 情 報 通 信 機 械 器 具 製 造 業	日立メディコ、富士ゼロックス、※別川製作所、北陸通信工業
輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業	小島プレス工業、西川電機工業所
電 気 ・ ガ ス ・ 熱 供 給 ・ 水 道 業	関西電力、北陸電力
情 報 通 信 業	NTTネオメイト、ディック電子
運 輸 業	東海旅客鉄道
卸 売 業	キセキ北陸、米心石川、横山商会
小 売 業	芝原商事
飲 食 店 ・ 宿 泊 業	川本
国 家 公 務	※自衛隊
そ の 他 の サ ー ビ ス 業	※ケイエスディ、CSN、総合警備保障、ハイマックス、富士通エフサス、富士通北陸システムズ、三菱電機システムサービス、三菱電機ビルテクノサービス
進 学	金沢工業大学 (36名)、金沢大学、徳島大学、ワシントン州立大学、金沢科学技術専門学校

(株) 省略 ※印の会社には 2 名以上が就職

(出典 「第 4 4 回卒業生名簿 (平成 2 2 年度 3 月 15 日卒業)」抜粋)

(資料7-2-16)

「進学状況(進学者数)」

平成17年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	19	0	19	2	1	3	21	1	22	0	0	0	0	0	0	2	0	2	24
機械工学科	15	0	15	2	0	2	17	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
計	34	0	34	4	1	5	38	1	39	0	0	0	0	0	0	2	0	2	41

平成18年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	18	0	18	0	0	0	18	0	18	0	0	0	0	0	0	3	0	3	21
機械工学科	8	0	8	1	0	1	9	0	9	0	0	0	0	0	0	2	0	2	11
計	26	0	26	1	0	1	27	0	27	0	0	0	0	0	0	5	0	5	32

平成19年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	14	0	14	1	0	1	15	0	15	0	0	0	0	0	0	2	0	2	17
機械工学科	9	0	9	0	0	0	9	0	9	0	0	0	0	0	0	2	0	2	11
国際コミュニケーション 情報工学科	11	1	12	0	0	0	11	1	12	0	0	0	0	0	0	1	0	1	13
計	34	1	35	1	0	1	35	1	36	0	0	0	0	0	0	5	0	5	41

平成20年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
機械工学科	13	0	13	0	0	0	13	0	13	0	0	0	0	0	0	2	0	2	15
国際コミュニケーション 情報工学科	6	0	6	2	0	2	8	0	8	0	0	0	0	0	0	1	0	1	9
計	20	0	20	2	0	2	22	0	22	0	0	0	0	0	0	3	0	3	25

平成21年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	8	0	8	0	0	0	8	0	8	0	0	0	0	0	0	1	0	1	9
機械工学科	15	0	15	3	0	3	18	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
国際コミュニケーション 情報工学科	10	0	10	2	0	2	12	0	12	0	0	0	0	0	0	1	0	1	13
計	33	0	33	5	0	5	38	0	38	0	0	0	0	0	0	2	0	2	40

平成22年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	5	0	5	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
機械工学科	15	1	16	1	0	1	16	1	17	0	0	0	0	0	0	1	0	1	18
国際コミュニケーション 情報工学科	12	2	14	0	0	0	12	2	14	0	0	0	0	0	0	4	1	5	19
計	32	3	35	1	0	1	33	3	36	0	0	0	0	0	0	5	1	6	42

平成23年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科			0			0	0	0	0			0			0			0	0
機械工学科			0			0	0	0	0			0			0			0	0
国際コミュニケーション 情報工学科			0			0	0	0	0			0			0			0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(資料7 - 2 - - 17)

「進学状況(進学先)」

		平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	合計	学種	合計
	金沢工業大学	23	28	34	22	36	143		143
国立大学	豊橋技術科学大学	2					2	15	
	長岡技術科学大学	1					1		
	金沢大学	2		1		1	4		
	富山大学	3					3		
	福井大学	2					2		
	新潟大学		1				1		
	三重大学	1					1		
	徳島大学					1	1		
	私立大学	金沢学院大学	1		1				2
名城大学				1			1		
仁愛大学			1				1		
関西大学		2					2		
名古屋学院大学		1					1		
名桜大学		1					1		
金城大学短期大学部			1				1		
日産京都自動車大学校				2			2		
海外の大学	ワシントン州立大学					1	1	3	
	セントマイケルズ大学		1				1		
	オタゴポリテクニーク			1			1		
	専門学校	2	4	2	3	1	12		12
合計		41	36	42	25	40	184		184

(資料 7 - 2 - - 18)

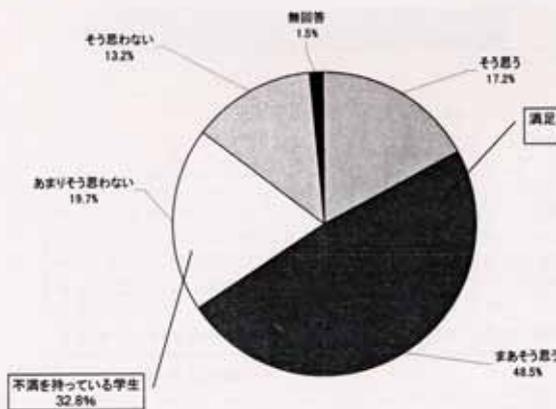
「平成 20 年度金沢高専の総合的な満足度」と「授業満足度」

<2-1> 金沢高専の総合的な満足度

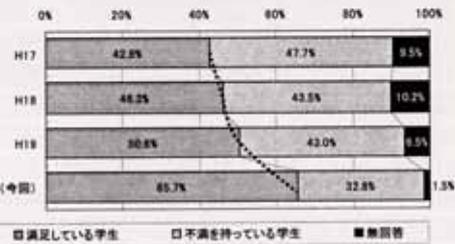
■本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て金沢高専に満足していますか?」という質問に対しては、「そう思う」が17.2%、「まあそう思う」が48.5%であり、合わせると65.7%が金沢高専に満足していると答えており、満足度の高さがうかがえた。
- 前回までは選択肢に「わからない」があり、それも「不明・無回答」に加えて集計していたが、今回からは「わからない」という選択肢は置かず、純粋な無回答のみを「無回答」として集計している。また、「まあそう思う」は前回まで「どちらかといえばそう思う」と聞いており、同様に「あまりそう思わない」は「どちらかといえばそう思わない」と聞いていた。そして、調査の時期もH18、H19は秋であったが、今回は年度末の実施となっている。このような質問方法の変更の影響も考えられるが、参考のため年度別の比較を行った。
- 金沢高専に満足している学生は、調査開始のH17から年々増加の傾向にあったが、今回はH19の50.6%から15.1ポイント増加しており、一気に満足度が上がっていることが分かる。ここには調査方法の変更や時期の変更の影響もあると思われるが、それを考慮しても大幅に満足度が向上していると言って良いものと思われる。

■総合的に見て金沢高専に満足していますか? (在校生のみ)



■金沢高専の総合的満足度 年度別比較



■金沢高専の総合的満足度 年度別内訳

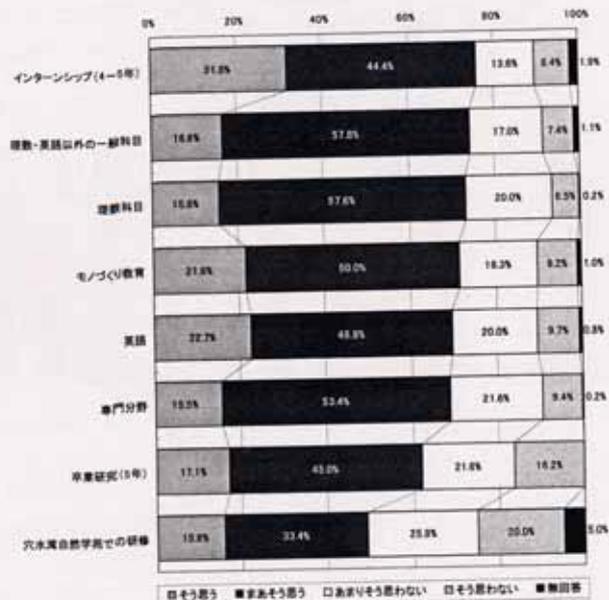
年度	満足している学生の合計	不満を持っている学生の合計
H17	42.8%	47.7%
H18	46.2%	43.5%
H19	50.6%	42.0%
H20(今回)	65.7%	32.8%

<3-1> 授業に関して

■授業に対する評価

- 授業に対する満足度で、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合が最も高かったのは4年生と5年生だけの科目である「インターンシップ」であり、76.2%が満足していた。
- 次いで、「理数・英語以外の一般科目」(74.4%)、「理数科目」(73.2%)、「モノづくり教育」(71.6%)と続いており、ここまでの4科目では7割以上が満足と答えていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」であり、満足という回答は49.2%にとどまった。そして、「卒業研究(5年)」は62.1%が満足と答えており、他の科目と比べるとやや満足度は低かった。

■授業に対する満足度(在学生のみ)



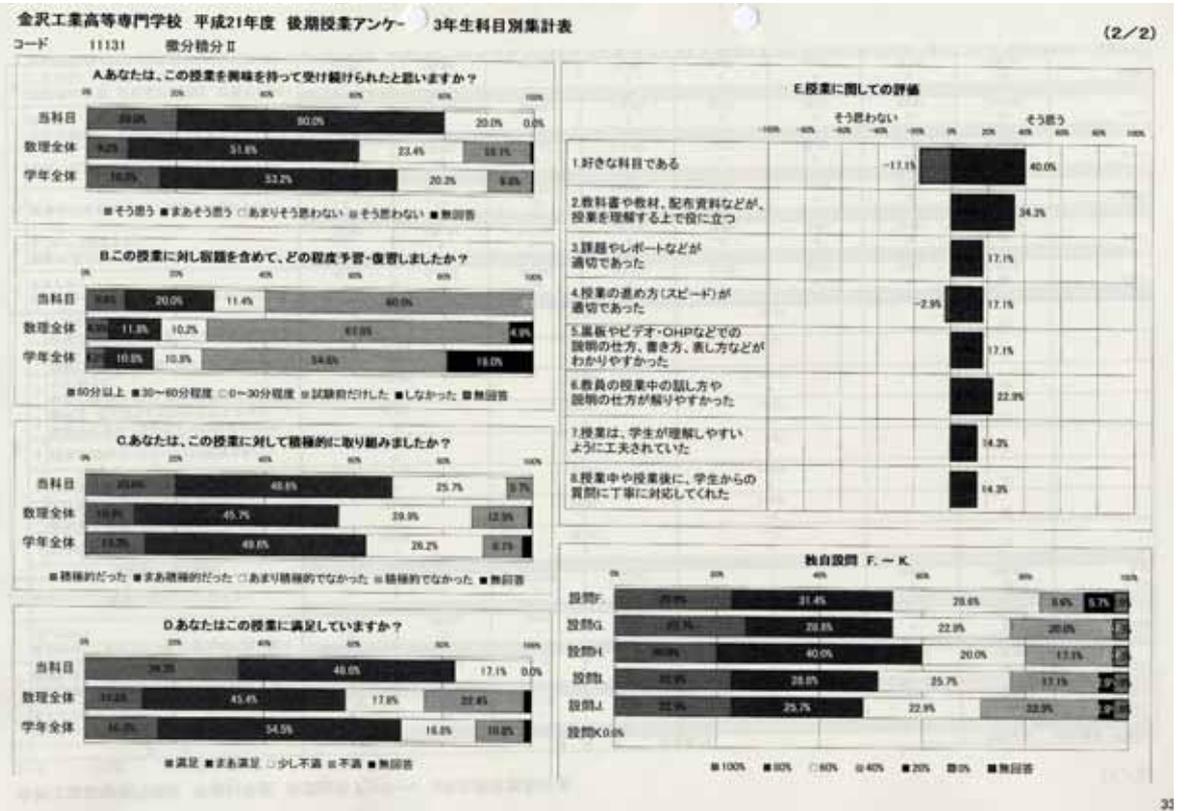
(出典: 「平成 20 年度 K T C 総合案ケート調査結果」 P.9,21)

(資料7 - 2 - - 19)
「KTC授業アンケート調査結果」

金沢工業高等専門学校 平成21年度 後期授業アンケート 3年生科目別集計表 (1/2)

コード 11131 微分積分Ⅱ

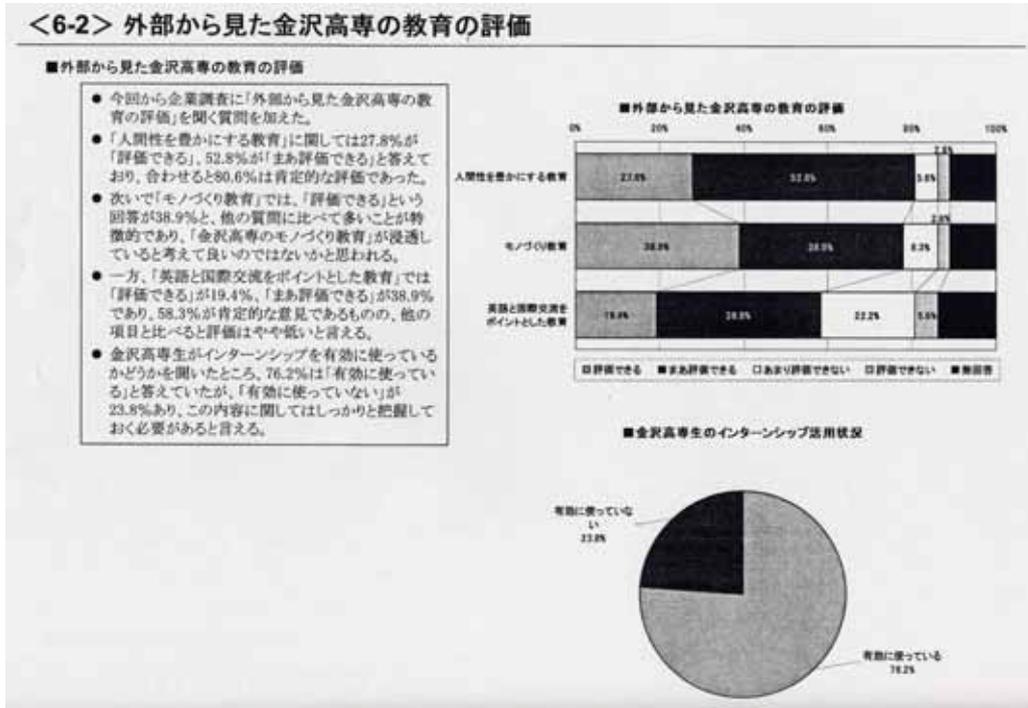
設問	そのうち	まあそのうち	あまりそのうち	そのうち	割合・%	無回答	回答数	標準偏差・加重平均
A あなたは、この授業に興味を持って受け続けられたと思いますか?	7 (20.0%)	21 (60.0%)	7 (20.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)	35 (100.0%)	0.642 4.00
B この授業に対し宿題を含めて、どの程度予習・復習しましたか?	3 (8.6%)	7 (20.0%)	4 (11.4%)	21 (60.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	35 (100.0%)	1.090 --
C あなたは、この授業に対して積極的に取り組みましたか?	7 (20.0%)	17 (48.6%)	9 (25.7%)	2 (5.7%)		0 (0.0%)	35 (100.0%)	0.822 2.57
D あなたはこの授業に満足していますか?	12 (34.3%)	17 (48.6%)	6 (17.1%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)	35 (100.0%)	0.707 5.00
E 授業に関する評価								
1 好きな科目である	14 (40.0%)	0	0	0	0 (0.0%)	8 (22.9%)	35	
2 教科書や教材、配布資料などが、授業を理解する上で役に立つ	12 (34.3%)	0	0	0	0 (0.0%)	12 (34.3%)	35	
3 課題やレポートなどが適切であった	0 (0.0%)	0	0	0	0 (0.0%)	6 (17.1%)	35	
4 授業の進め方(スピード)が適切であった	6 (17.1%)	0	0	0	0 (0.0%)	5 (14.3%)	35	
5 黒板やビデオ・OHPなどでの説明の仕方、書き方、表し方がわかりやすかった	0 (0.0%)	0	0	0	0 (0.0%)	6 (17.1%)	35	
6 教員の授業中の話し方や説明の仕方が解りやすかった	0 (0.0%)	0	0	0	0 (0.0%)	8 (22.9%)	35	
7 授業は、学生が理解しやすいように工夫されていた	5 (14.3%)	0	0	0	0 (0.0%)	5 (14.3%)	35	
8 授業中や授業後に、学生からの質問に丁寧に対応してくれた	0 (0.0%)	0	0	0	0 (0.0%)	5 (14.3%)	35	
F 増減表を作成して、グラフの形を描くことができるようになりましたか?	0 (0.0%)	11 (31.4%)	10 (28.6%)	3 (8.6%)	2 (5.7%)	2 (5.7%)	35 (100.0%)	1.269 --
G 関数の極大値と極小値、最大値と最小値を求めることができるようになりましたか?	9 (25.7%)	10 (28.6%)	8 (22.9%)	7 (20.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	35 (100.0%)	1.243 --
H 関数の不定積分を求めることができるようになりましたか?	7 (20.0%)	14 (40.0%)	7 (20.0%)	6 (17.1%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	35 (100.0%)	1.172 --
I 関数の定積分の値を求めることができましたか?	0 (0.0%)	10 (28.6%)	9 (25.7%)	6 (17.1%)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	35 (100.0%)	1.267 --
J 定積分を用いて、図形の面積を求めることができましたか?	0 (0.0%)	9 (25.7%)	9 (25.7%)	6 (17.1%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	35 (100.0%)	1.305 --
K 未設定	0	0	0	0	0	0	0	--



(出典 「平成21年度 KTC授業アンケート調査結果」 P.34,35)

(資料 7 - 2 - - 20)

「企業等からの意見聴取」



(出典：「平成20年度KTC総合アンケート調査結果」P.73)